

福祉 × 農業 × 振興

コロナ禍でも進化する

「互いに学び合うフラットな職場環境」づくり



≡(★注目ポイント★)≡

- 1 農業公苑「癒しの果樹園あわらベルジェ」観光ぶどう園の近未来構想でブドウ園・ナシ園運営。多くの一般客が来所
- 2 高工賃の目標を設定し、自立した生活を視野に作業を多角化。どんな人にでもいろいろな作業準備ができる
- 3 産直市場(スーパーマーケット)と市場内喫茶店を運営。作業種類も多く、能力開発にも高工賃取得にも貢献

特定非営利活動法人ピアファーム
ピアファーム
http://www.peerfarm.jp
(福井県あわら市)

福井県坂井農林総合事務所
JA福井県、あわら市農業委員
個人農家

●基本データ(令和3(2021)年12月現在)

所在地 〒910-4277
福井県あわら市波松68-87-2
TEL 0776-79-1830
開設年 平成20(2008)年
実施事業 就労継続支援B型
(定員20人、現員25人)
主たる障がい 知的・精神・身体

利用者の平均年齢 45歳
福祉事業活動における
直接支援職員数 10人
目標工賃達成
指導員の配置 有

※所在地・TELは令和4(2022)年11月～

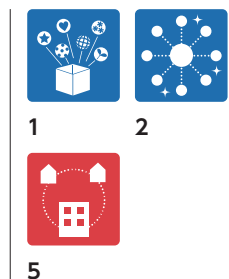


概要

ピアファームは平成20(2008)年に、前職(社会福祉法人)から就労移行に所属する利用者10人、スタッフ2人で独立分社して創業しました。

農業に特化した就労継続支援B型事業として前職から継承したナシ、野菜栽培に取り組みました。農園の運営のほか、農業公苑「癒しの果樹園あわらベルジェ」観光ぶどう園で生産した果樹の販売、農産物直売所で地域農家から出荷された農産物や加工品の販売を主に行っています。

SELP Vision 2030



利用者数と活動日数(令和3年9月実績)

1日以上参加した利用者数 22人

活動日数 23日

参加した延べ人数 442人

利用者の所属 | 就労継続支援B型事業

開始までの経緯

前職の知的障害者福祉工場(現・就労継続支援A型事業)と農業生産法人で手がけてきた、多様な課題がある人たちに就労可能な農業・果樹栽培と販売の事業を継承しました。

利用者が自然のなかで生きいきと働くことができる環境を実現、年間を通じた仕事となり、また、農業・果樹栽培の担い手不足を解消して地域農業に貢献できる就労継続支援事業となりました。そして事業目標として工賃向上を掲げました。



丹精込めて栽培したナシ

具体的な取り組み

平成23(2011)年ーあわら市農業委員会より「あわら市認定農業者」の認定を受け、地域農業の担い手として荒廃農地を開墾し、地域特産のナシや福井県園芸奨励品種のブドウ栽培を手がける。工賃向上を事業目標に掲げ、農業収益拡大を図ることで地域に貢献。

平成25(2013)年ー農業公苑癒しの果樹園あわらベルジェとして観光ぶどう園を開業、年間4000人の来園者がある。

令和2(2020)年ー特別支援学校キャリア教育指定農業実習、福井県立大学創造農学科のインターンシップ等の指定事業所となる。

職員の役割

本事業に携わる
職員の人数

10人

部門ごとの担当職員

栽培管理、技術指導

支援員としての
区分はない

職員は、栽培する作物ごとに分かれた部門で支援員としての区分なく役割をもっています。各部門が栽培管理から利用者の技術指導まで一貫して行います。



ナシ摘果作業



産直市場ピアファームの農産物販売コーナー



このブドウの房づくりも利用者が担えるようになりました

生産設備・備品等

工賃向上を事業目標に掲げ収益を拡大するために必要な生産設備、備品等は、福井県や民間助成団体の補助、助成を受けました。

年	事業内容	事業費(千円)、補助・助成元	
平成21(2009)	就労継続B型事業の機器整備	4,600	日本財団

ビニールハウス2棟、資材ハウス1棟、農産物直売所冷蔵庫2機

平成23(2011)	障がい者自立支援基盤整備事業	5,600	福井県
------------	----------------	-------	-----

ブドウハウス2棟 他

平成26(2014)	平成24年～26年企業的園芸事業	93,517	福井県
------------	------------------	--------	-----

ブドウハウス、醸造用ブドウ棚、直売所レストハウス、HP等ソフト事業

平成27(2015)	新品種ナシ棚工事	5,800	ヤマト福祉財団
------------	----------	-------	---------

ナシ新品種を植栽

平成30(2018)	観光農業公苑整備事業	7,884	清水基金
------------	------------	-------	------

ブドウハウスビニール被覆一式、資材ハウス他

令和元(2019)	たい肥散布車、乗用草刈り機	1,290	木口福祉財団
-----------	---------------	-------	--------

肥料散布車、乗用草刈り機の導入

令和2(2020)	醸造用ブドウ棚工事等	2,356	丸紅基金
-----------	------------	-------	------

醸造用ブドウ棚工事、苗木の購入

令和3(2021)	休憩所建設整備工事	8,248	清水基金
-----------	-----------	-------	------

ブドウハウスビニール被覆一式、資材ハウス他

工夫していること、心がけていること

職員指導や 研修

就労にかかる事業、運営、利用者援助について週1回協議会をもち、問題や課題に対するケーススタディ、スーパービジョンの時間を設けて支援しています。

農業・農産物の栽培生産や販売は、JAや農林総合事務所の栽培支援を仰ぎながら事業所全体で取り組んでいます。

実習や研修の 受け入れ

ピアファームは地域の特別支援学校や福井県、大学生などから要請される実習や研修などをできる限り受け入れ、連携を心がけています。実習生や研修生と一緒に農作業を手伝います。

課題と対応

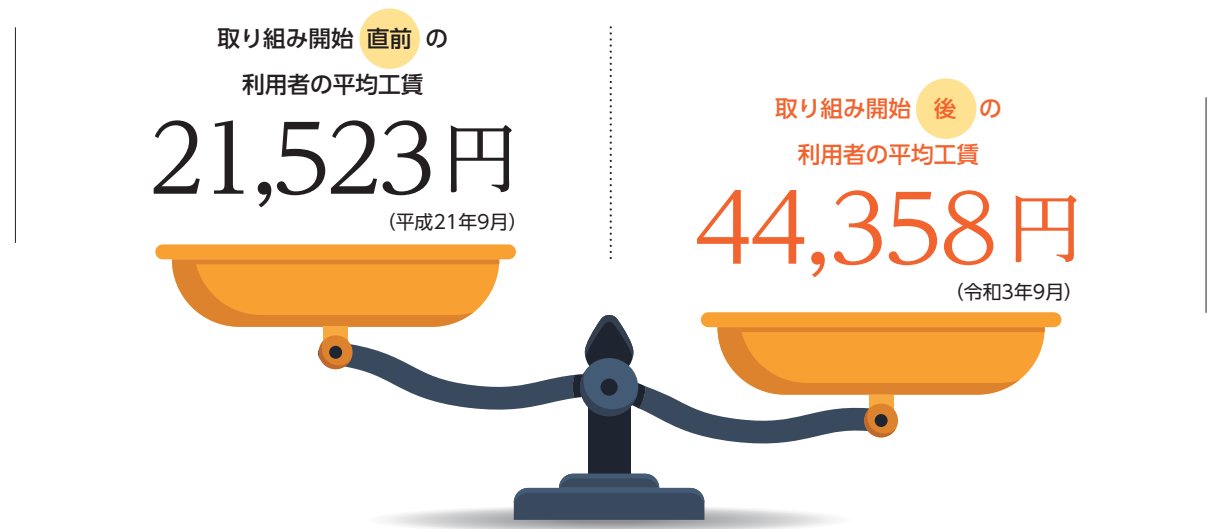
課題 農業に対する不人気・無関心 **対応** ピアファームは工賃給与向上の職種として農業に取り組み、クッキーやパン製造販売の職種と同様の対応をしています。「農業に対する不人気・無関心」は特に課題ではないといえます。

課題 利用者に活躍の場を **対応** 利用者の能力はさまざまであり、各人ができることの違いが同じ仕事をするうえで円滑な作業の妨げとなることがあります。そこで、枝切り、枝運び、選別、軽量、袋詰めなど、作業工程を細分化し、利用者の能力にあわせた活躍の場を創り、用意します。利用者はそれぞれのペースで1年を通して作業をすることができるようになりました。

課題 新型コロナウイルスの影響 **対応** 新型コロナウイルスのまん延で観光ぶどう園の来客者数が減少すること想定して、手頃な価格でブドウの詰め合わせを販売したピアファーム。その商品が広く出回り、委託販売をお願いしている就労支援事業所で認知度が上がり、感染拡大以前の売上額を超える結果となりました。

工賃の変動

ピアファームの創設事業目標は「月平均工賃給与の向上」です。事業予算で当初、ひとり当たり月平均2万円弱でしたが、令和3年には4万5千円を超えることができました。事業収益を向上させ極力工賃に変動が出ないようにしてきたのだそうです。



反応・効果

利用者 の反応・効果 作業の細分化や環境の整備に取り組むことで、利用者が生きいきと働ける場を創ることができ、出勤率の向上につながりました。

職員 の反応・効果 ピアファームに福祉系の資格がある職員はいませんが、農業経験者から受ける指導や研修で知識と技術を身につけ、農業・福祉に対する適切な対応や収益の向上に向けて日々励んでいます。

地域 の反応・効果 耕作放棄地の再生（開始以降、2.5ヘクタールの耕作放棄地を開墾）や地域特産品の継承、地域の農業振興（地区の農業機械利用組合へ参加）に貢献することができました。

★ 展望・課題



ピアファームは、福井県内の農福連携事業の浸透、障がいがある方の工賃向上と所得保障をめざすことを展望に据えました。そして就労支援事業を通じて地域の農業、地域特産品を継承したいと考えています。

ピアファームのSDGsへの取り組み

アジアギャップ*を取得しました。取得過程では食の安全、農作業の安全を守るためのルールづくりと共有を重要視し、そのルールを掲示することで、利用者にもわかりやすく伝えていきます。



*ASIA GAP<Good Agricultural Practice>
食品安全、環境保全、労働安全、人権福祉、農場運営の要素を含んだ取り組みを認証する制度